

岐阜フィールド科学教育研究センターの紹介

1. 概要・沿革

岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター(以下,センター)は,平成16年4月に応用生物科学部の発足とともに,旧農学部附属農場と附属演習林を統合し設置された。これによって旧附属農場と旧附属演習林が個別に行ってきた教育活動を,自然環境と生物生産及びそれらの相互作用に関して総合科学の立場から教育・研究し,また大学と地域社会に貢献することを目的に活動している。

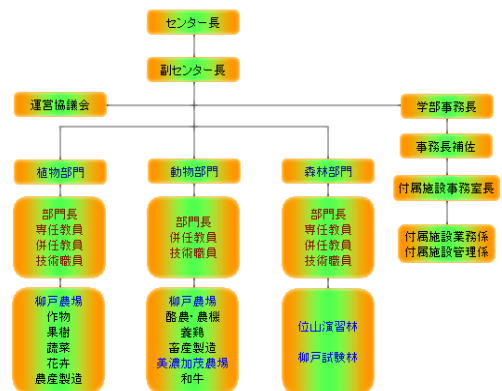
センターは,柳戸農場(8.66ha),柳戸試験林(0.72ha),美濃加茂農場(9.84ha),位山演習林(554.9ha)の4つのフィールドで構成されている。とくに,柳戸農場と柳戸試験林は,岐阜大学柳戸キャンパス内に位置している点で全国の統合型キャンパスでは数少ないフィールドとなっている。キャンパス内にフィールドがあることで,学生が日常的に利用することが可能であり,また応用生物科学部以外の学生も利用しやすくなっている。柳戸農場には,水田・畑・果樹園・温室及び農業機械室・機械工作室等の圃場や施設を備え,柳戸試験林では苗畑や展示林,木工工作室などを備えている。これによって,学部教員や学生の広汎かつ一貫した体験的実習や高度な専門的実験・実習を支援し,機動的に活用されている。

柳戸農場は1982年に各務ヶ原農場から移転を開始し1984年に完了し,柳戸地区にある農場として,名称を柳戸農場とした。また,柳戸試験林は,移転を機に設置された。美濃加茂農場は1931年に加茂郡和知村(現在 美濃加茂市牧野)に畜力による大型農耕田を目的とした特殊農場として設置され,1965年に美濃加茂農場の名称とした。位山演習林は1937年に大阪大林局(現在の営林局)から岐阜高等農林専門学校に管理移管し設置されたものである。1949年に岐阜大学農学部改組された際に,名称を同学部附属の位山演習林となった。

2. 組織・運営

センターは植物部門・動物部門・森林部門の3部門から構成されている。センター長(応用生物科学部教員,センター専任教員),副センター長(センター専任教員),各部門に部門長と併任教員(応用生物科学部教員3人~4人)が配置されている。運営方針は月1回の運営協議会で決定される。各部門には技術職員の長である技術長が配置され運営協議会にオブザーバーとして参加している。

人員は柳戸農場に専任教員1人,技術職員8人,技術・技能補佐員9人,美濃加茂農場に技術職員1人,技術・技能補佐員3人,柳戸試験林と演習林で専任教員が1人,柳戸試験林に技術・技能補佐員3人,位山演習林に技術職員2人であり,農場と演習林が相互に連携をもちながら業務を行っている。



岐阜フィールド科学教育研究センターの組織

3. 業務

(1) 日常管理

「植物生産部門」は柳戸農場で水稻,花卉,蔬菜及び果樹の栽培管理を行っている。

「動物生産部門」は,柳戸農場で乳牛と産卵鶏の飼養管理を行っている。また美濃加茂農場で肉牛の飼養管理と関連施設の管理を行っている。

「森林部門」は、柳戸試験林と下呂市にある位山演習林の管理を行っている。

(2) センターを使用する授業科目

- ・フィールド科学(生産環境科学課程)
- ・自然科学実験講座 3 科目(岐阜大学全学共通教育)
 - ごはんまでのフィールド科学
 - 家畜たちのフィールド科学
 - 森と川のフィールド科学
- ・フィールド科学基礎実習・応用実習
 - (応用生物科学部生産環境科学課程)
- ・応用生命科学実習 I
 - (応用生物科学部応用生命科学課程)
- ・応用植物科学実験実習 I・II
 - (生産環境科学課程応用植物科学コース)
- ・樹木識別実習(応用生物科学部生産環境科学課程)
- ・標本植物識別実習(応用生物科学部生産環境科学課程)
- ・鳥類識別実習(応用生物科学部生産環境科学課程)
- ・昆虫識別実習(応用生物科学部生産環境科学課程)
- ・水生生物識別実習(応用生物科学部生産環境科学課程)
- ・牧場実習(生産環境科学課程応用動物科学コース)
- ・動物行動管理学実験実習
 - (生産環境科学課程応用動物科学コース)
- ・夏季フィールド実習
 - (生産環境科学課程環境生態科学コース)
- ・野生動物医学実習(応用生物科学部獣医学課程)
- ・栽培学及び実習(教育学部技術教育学講座)
- ・共生のための実践的農場実習
 - (応用生物科学部生産環境科学課程)
- ・山地資源管理学特論(応用生物科学研究科)
- ・農業生産技術学特論(応用生物科学研究科)

(3) 公開型教育活動

- ・学内の自然環境の再生と教育利用
- ・動物を利用した情操教育
- ・溪流環境の保全と教育
- ・森林、環境、農業などに関するインストラクターの育成
- ・環境、教育系 NPO 等との共同
 - (野外教育、食品安全教育、食農教育、環境教育)

(4) 研究活動

- ・フィールド科学教育の教授法の開発
- ・森林、緑地、耕地環境の保全と管理に関する研究
- ・作物、花卉、果樹等の機能開発と管理に関する研究
- ・動物の繁殖、飼育、保護に関する研究
- ・食品の機能開発と安全に関する研究
- ・障がい者の農業就労に関する研究

(5) 連携・協同

- ・遺伝資源の保全
- ・堆肥製造、提供、間伐端材の提供
- ・各種研究機関、企業との共同研究
- ・岐阜市立岐阜特別支援学校連携就業体験実習
デュアルシステム(企業内作業学習)活動(年 23 回)
- ・岐阜県立可茂特別支援学校連携農業体験実習
- ・他大学との連携協力による農場利用および技術指導
岐阜大学応用生物科学部附属家畜衛生地域連携教育研究センターと岐阜市立女子短期大学食物栄養学科、岐阜女子大学家政学部健康栄養学科の教育連携
- ・公開講座「食と緑と命の学校」開催
 - (JA ぎふとの共催による公開講座、年 6 回)
- ・FCぎふ(泥んこサッカー、田植え体験、稲刈り)

(6) その他

- ・センター公開講座
 - (筍掘りと美濃加茂農場見学、雪山を歩こう)
- ・岐阜大学公開講座開催
 - (家庭菜園の基礎 理論と実際 年 15 回)
 - (食べられる生命肉と卵と牛乳の科学と実際年 4 回)
- ・技術相談窓口
 - (栽培、動物飼育、山地保全、環境修復等)
- ・安全衛生教育の実施(労働安全衛生法)
 - (刈払機取扱作業者・チェンソー作業者)
- ・衛生管理者としての業務(職場巡視、会議参加など)
- ・オープンキャンパス、岐阜大学フェアへの参加
- ・春の花市(年 1 回開催)
- ・機器分析センター協力員の業務